

## 平成 21 年度第 1 回 歯学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事概要

- I. 日時：平成 21 年 8 月 10 日(月) 午前 11 時から午後 1 時まで
- II. 場所：私立大学情報教育協会事務局会議室
- III. 出席者：神原委員長、松久保委員、片岡委員、齊藤委員、森實アドバイザー、  
藤井アドバイザー  
井端事務局長、森下主幹、恩田
- IV. 検討事項

### 配付資料

- ・ 医歯薬合同研究会配布資料 ①東京女子医科大学 吉岡教授、  
②東京医科歯科大学 奈良教授
- ・ 新しい一般歯科医のためのコンピテンシー
- ・ 参考 1 分野別の教育課程編成上の参照基準について(基本的な考え方)
- ・ 参考 2 分野別の質保証の枠組みに関する概念図
- ・ 参考 3 大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会  
ー今までの審議経過と今後の予定ー
- ・ 参考 4 分野の単位の設定並びに分野の選定についての基本的な考え方(案)
- ・ 参考 5 分野別の教育課程編成上の参照基準について(基本的な考え方)
- ・ 大学 多様化の時代の大学教育は 朝日新聞 2009 年 8 月 10 日(月)
- ・ 平成 20 年度第 3 回歯学教育 FD/IT 活用研究委員会議事録

### 検討事項

1. 本日の記録担当
2. 歯学教育における教員の教育力について

新しい一般歯科医のためのコンピテンシー（2008 年 7 月）の資料をもとに、検討をおこなった。コンピテンシーと日本のコアカリキュラムとの差がある。教育の質保証という意味で、知識のみではなく、技能や態度を含めて卒業時にできる能力は何かを決めて、それを評価する必要がある。教科別カリキュラムの問題点として、いくつかの教科をまたがった内容もあり、そこをうまく統合できない学生も多い。そこで、最初に統合した形で教育することの重要性が強調されている。たとえば包括的な診断計画・治療計画を立てる能力は、教科別カリキュラムでは教えるにくい部分であり、また歯科医師にとって重要な能力である。このようなグローバルスタンダードにのっとったコンピテンシーを喫緊の課題としてすすめる必要がある。ヨーロッパにおけるコンピテンシー「Profile and competences for the European dentist」European Journal of Dental Education 2005;9:98-107 を片岡委員から配布することになった。

TBL(team-based-learning)では、1.「概念を知っている」から「概念を使える」、2. 教員は授業内容のエキスパートである必要はなく、ガイドが良い。3. 学生は「受け身」から学習する内容により責任をもつ「能動的な学習者」に変化する。チームとしての結束力を高め、フィードバックを頻繁に行い、授業の予習やチーム活動への貢献に責任を持ち、グループ活動を活性化するような分担を行うことにより、学生の動機を高めることができる。また教員のみが教育を行うのではなく、上級生が下級生を指導するような、屋根がわら式の教育システムの構築も重要ではないか。教員の教育力を高める。メンタリングの能力も教員が身につけるべきである。

### 3. 歯学教育における分野別情報教育について

グローバルスタンダードを視野に入れつつ、ミニマルスタンダードを押さえた歯学教育の構築が重要だと考えられる。コンピテンシーという概念を取り入れることで、グローバル化を図りたい。

### 4. 今後の活動について

次回は再度コンピテンシーの勉強会を行う。

### 4. その他

- ・ 次回の委員会開催日 9月24日(木) 午後5時00分～7時00分